令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果
－分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　　名	西
学 校 名	西船場小学校
学校長名	石井　宏享

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和７年４月17日（木）に、６年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査内容

(1) 教科に関する調査

・国語
・算数
・理科

(2) 質問調査

・児童に対する調査
・学校に対する調査

３　調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第６学年の原則として全児童
・西船場小学校では、第６学年　99名

学校名　西船場小学校

令和７年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語・算数・理科のいずれの教科においても、大阪府および全国の公立学校平均を上回っている。国語では平均正答率71.0%であり、大阪府平均65.0%、全国平均66.8%を上回っている。特に「書くこと」や「知識・技能」の領域において高い成果が見られ、表現力や語彙力の定着が良好である。算数では68.0%と、大阪府・全国平均（ともに58.0%）に対して約10ポイントの差があり、「数と計算」や「データの活用」などの領域で優れた理解が示されている。理科も62.0%であり、大阪府平均55.0%、全国平均57.1%を上回っている。「地球」領域では特に高い正答率を記録しており、自然現象への理解が深いことが窺える。全体的に、記述式問題ではやや課題が見られるものの、短答式や選択式では安定した成果を挙げており、知識・技能だけでなく思考力・判断力・表現力の面でもバランスの取れた学力が育まれていると評価できる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

・国語科では、知識・技能を問う問題の平均正答率が85.5%と高く、基礎的な力が十分に身についていることが示されている。一方、思考・判断・表現を問う問題では平均正答率が65.3%であり、一定の成果は見られるものの、さらなる伸長の余地がある。問題形式別では、短答式の正答率が85.7%と高く、記述式は64.5%とやや低めで、無解答率も10.3%と高い傾向にある。これは、記述力や表現力に課題がある可能性を示唆している。選択式は正答率67.6%、無解答率0.5%と安定しており、基本的な理解力は良好である。今後は、記述式問題への対応力を高める指導が求められる。
・算数科では、全体的に正答率が高く、特に「数と計算」や「データの活用」領域においては80%以上の正答率を記録しており、基礎的な計算力や情報の読み取り力が十分に育成されていることがうかがえる。一方で、記述式問題では正答率が低く、特に分数の加法や図形の面積を求める問題では30～50%台にとどまっており、無解答率も10%以上に達する問題が見られる。これは、思考力や表現力を要する問題への対応に課題があることを示している。短答式や選択式では安定した成果が見られるが、記述式への取り組みを強化することで、より深い理解と応用力の育成が期待される。
・理科の平均正答率は62.0%で、全国平均（57.1%）を上回っている。特に「地球」領域では72.2%と高く、全国との差は5.5ポイントと顕著である。一方、「エネルギー」領域では48.9%と全国平均（46.7%）をわずかに上回るが、他領域と比べて低めであり、今後の指導強化が求められる。記述式問題の正答率は43.5%と低く、無解答率も高めであるため、表現力の育成が課題である。

質問調査より

生活習慣、自己肯定感、社会性、学習意欲など多くの面において非常に良好な傾向を示しており、全国平均を上回る項目が多数存在している。特に「朝食を毎日食べている」（87.9%）、「いじめはどんな理由があってもいけないと思う」（89.9%）、「先生が自分のよいところを認めてくれていると思う」（81.8%）といった項目において高い肯定的回答が得られており、児童が安心して学校生活を送っていることがうかがえる。また、「人の役に立つ人間になりたい」（83.8%）、「友だち関係に満足している」（74.7%）、「人が困っているときに進んで助ける」（63.6%）など、社会性や協調性に関する項目でも高い肯定率が見られる。さらに、「読書が好き」（46.5%）、「自然の中で遊んだ経験がある」（38.4%）、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」（48.5%）といった項目からは、児童の豊かな感性や社会貢献への意欲が育まれていることが読み取れる。これらの傾向は、今後の探究的な学びや体験活動への発展が期待される。一方で、ICT機器の活用や家庭学習時間、読書時間などに関しては、全国平均と比較して改善の余地がある。これは、児童が今後さらに成長できる可能性を秘めた分野であり、学校として意識的に取り組むことで、主体的な学びや情報活用力の向上が十分に見込まれる。特に、ICT機器の活用（3.0%）や新聞の購読（5.1%）などは、情報リテラシーの育成に向けた取り組みの強化が有効である。児童は、生活面・人間関係・学習意欲において非常に前向きな姿勢をもっており、今後の教育活動を通じて、より豊かな学びと成長が期待される。児童の可能性をさらに引き出すために、現在の良好な傾向を維持しつつ、情報活用や主体的な学びの機会を充実させる。

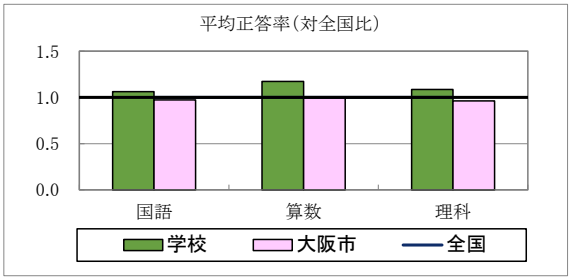
今後の取組(アクションプラン)

今後の取組として、児童の学力と人間性の両面における良好な傾向を維持・発展させることを基本方針とする。国語・算数・理科の各教科では、知識・技能の定着が十分であり、短答式・選択式問題への対応力も高い。これらの成果を活かしながら、記述式問題への取り組みを強化し、思考力・表現力の育成を図ることで、より深い学びへとつなげていきたい。児童アンケートからは、生活習慣の安定、自己肯定感の高さ、社会性の育成など、家庭教育と学校教育の質の高さが明らかとなった。これらの強みを土台に、探究的な学びや体験活動をさらに充実させることで、児童の主体性や創造性を育む教育環境の構築が期待する。特に今後は、ICT機器の活用や読書習慣の促進、家庭学習の充実に力を入れることで、児童の情報活用力や学びの幅を広げることができる。ICTについては、授業内外での活用場面を増やし、児童が自ら調べ、考え、表現する力を育てることが重要である。読書については、学校図書館の活用や読書活動の推進を通じて、感性や語彙力の向上を図る。また、地域との連携も今後の重要な柱である。地域の大人との交流や体験活動を通じて、児童が社会とのつながりを実感することで、地域貢献への意欲を高めていきたい。これにより、児童の視野が広がり、学びがより実生活に根ざしたものとなることを期待する。

【 全体の概要 】

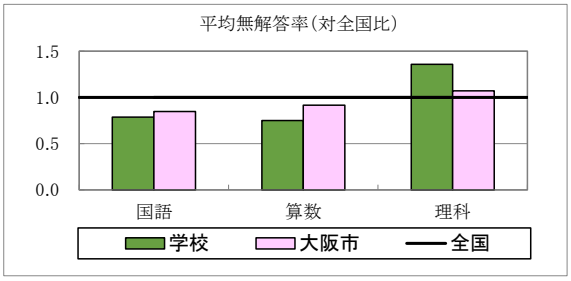
平均正答率（%）

	国語	算数	理科
学校	71	68	62
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（%）

	国語	算数	理科
学校	2.6	2.7	3.8
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

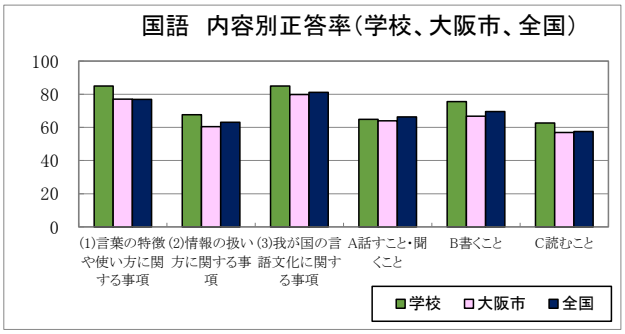


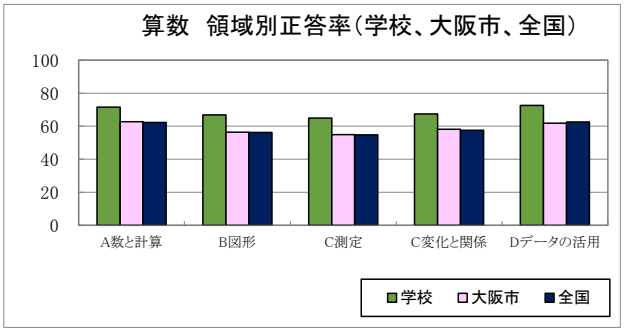
【 国 語 】

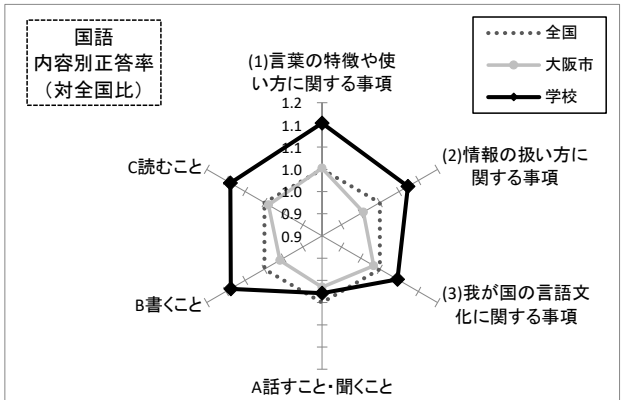
学習指導要領の内容	対象設問数（問）	平均正答率(%) 学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	84.9	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	67.7	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	84.9	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	64.9	64.0	66.3
B 書くこと	3	75.6	66.7	69.5
C 読むこと	4	62.6	56.9	57.5

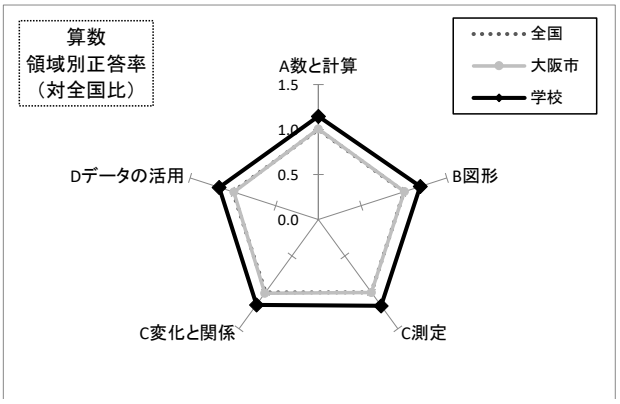
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数（問）	平均正答率(%) 学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	71.5	62.7	62.3
B 図形	4	66.8	56.4	56.2
C 測定	2	64.9	54.9	54.8
C 変化と関係	3	67.4	58.2	57.5
D データの活用	5	72.6	61.9	62.6



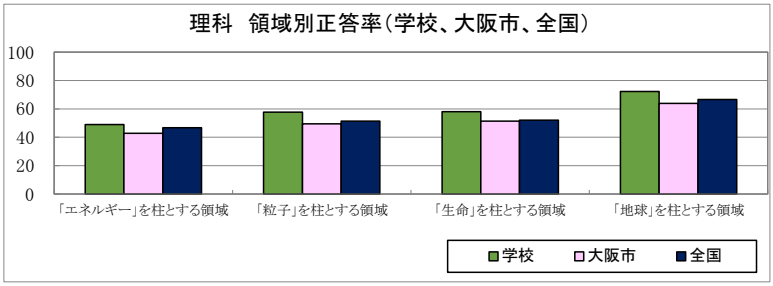


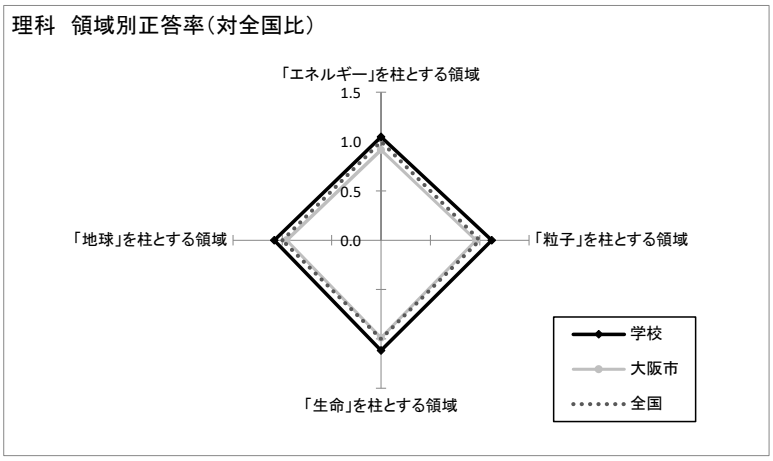




【 理科 】

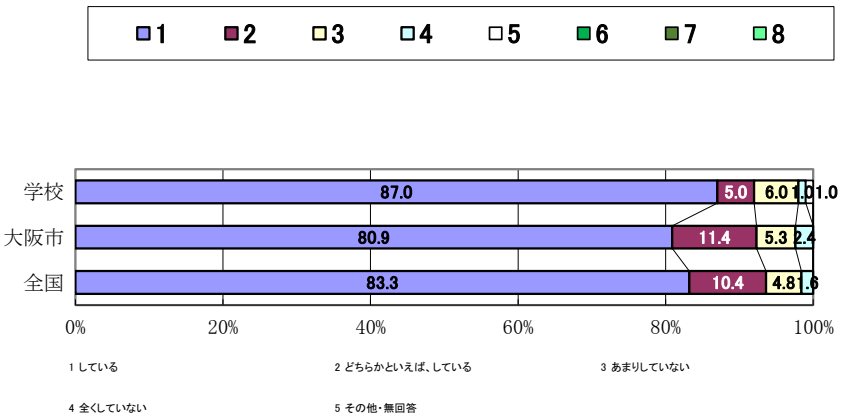
学習指導要領の区分・領域		対象設問数（問）	平均正答率(%) 学校	大阪市	全国
A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	48.9	42.7	46.7
	「粒子」を柱とする領域	6	57.7	49.5	51.4
B区分	「生命」を柱とする領域	4	58.1	51.4	52.0
	「地球」を柱とする領域	6	72.2	63.8	66.7



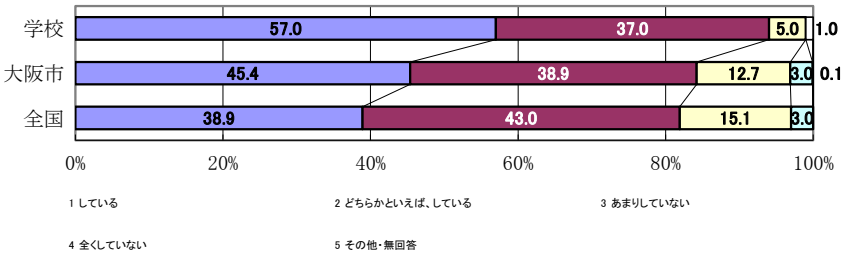


児童質問より

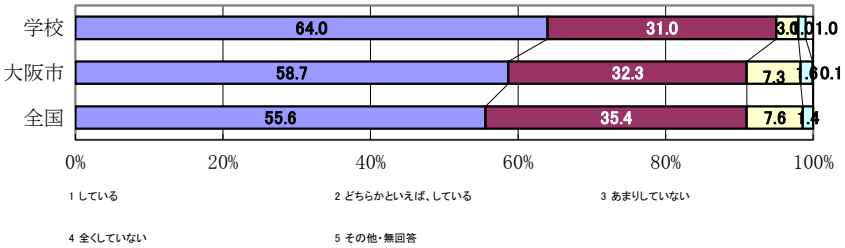
質問番号	質問事項
1	朝食を毎日食べていますか



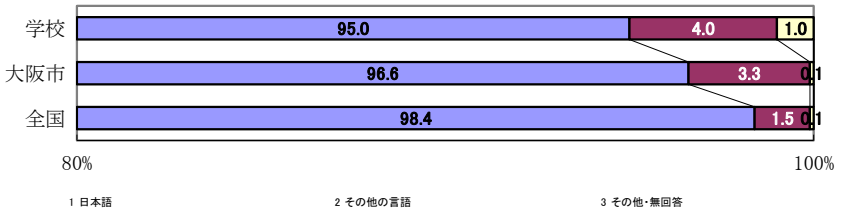
2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



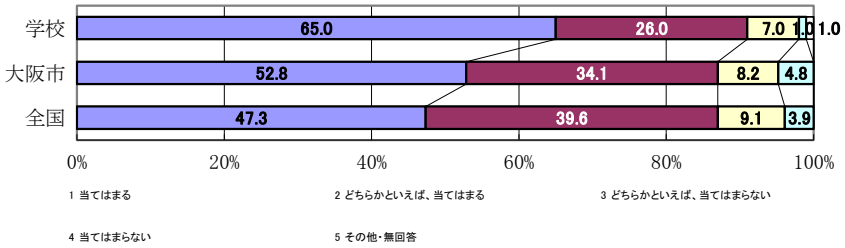
3
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



4
あなたの家では主に何語で話していますか

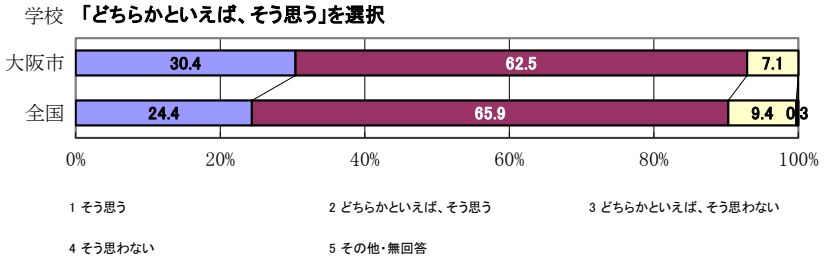


5
自分には、よいところがあると思いますか

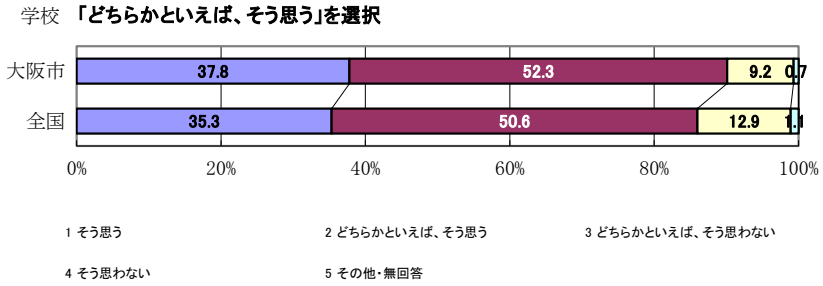


学校質問より

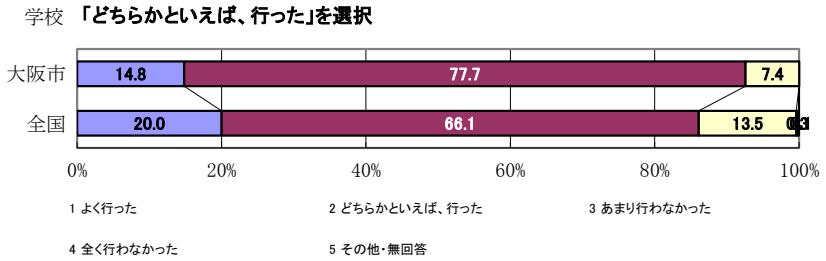
質問番号	質問事項
7	調査対象学年の児童は、熱意をもって勉強していると思いますか



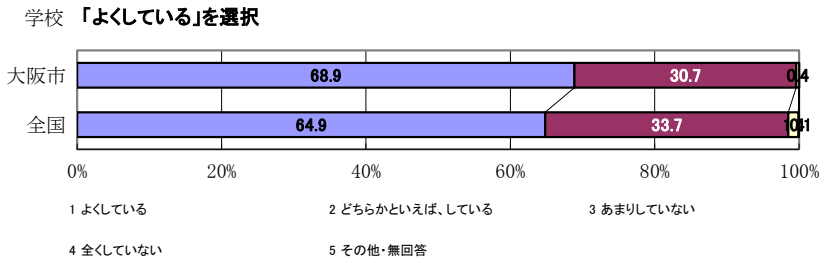
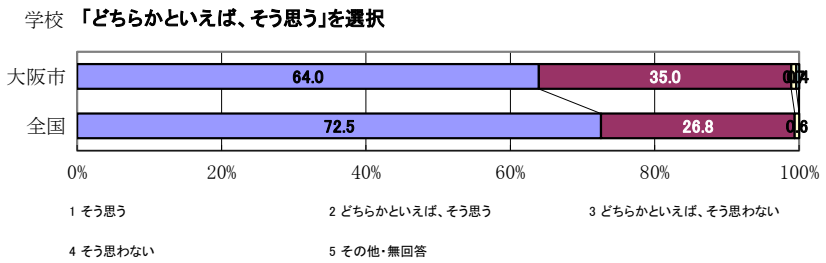
8	調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか



9	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか



18	授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか



23	教職員が困っているとき、管理職と教職員との間で随時相談できるなど組織的に対応する体制を構築していると思いますか